

設立

6/21

港町連合自治会

～地域のつながりが生活を豊かにする～



全ての人が一体となった持続可能で元気な浜田市

まちづくり

通信

第19号
令和8年9月発行

コーディネーター

目次

- P1. 港町連合自治会設立 **NEW**
- P2. 子どもに視点をのいたまちづくり
美川地区まちづくりネットワーク / 黒川まちづくり委員会
- P3. 子どもに視点をのいたまちづくり
後野町まちづくり推進委員会 / 弥栄のみらい創造会議
- P4. 【特集】4年に一度の岡見花火/コーディネーターのつぶやき



会長:大達 茂雄さん

【港町の背景】 引用:浜田市人口統計令和8年9月1日現在

港町連合自治会は、7つの町内会で構成され、総世帯数、461世帯。人口 831人。 高齢化率 28.88% と、企業や官公庁、小学校、病院、大型スーパーや公共交通が整う利便性に富んだ地域です。しかし、コロナ禍が拍車をかけ、隣近所とのつながりの希薄化やそれに伴う助け合い、安全安心への備えが進みにくいなど、地域が抱える課題があります。

【会長談話】 ★**港町連合自治会として初めての事業となる『ラジオ体操活動』**を、夏休み期間中の15日間、町内2カ所で行いました。これは、港町連合自治会の設立に向けた準備委員会から「地域の安全安心」と「子どもたちの健全育成」を図ることを活動目標に掲げた事業の一環です。ラジオ体操を通して、町内会会員と子どもたちが会話を交わしました。

★「**何かきっかけがないと子どもたちと会話ができません。**」そのきっかけがラジオ体操です。総会後、全戸に配布をした冊子『港町とラジオ体操』の効果もあり、不安をよそに予想を大きく上回る延べ450人強の参加がありました。

★「**子どもも大人も参加しやすいラジオ体操にするには?**」役員と有志で夏場の体調管理を考え、水分補給と簡単なおやつ準備を行いました。また、「楽しみながら頑張ってきたほしい」、「ラジオ体操であいさつができるようになりたい」との思いから、「皆勤賞」や「精勤賞」、「参加賞」を設けたところ、役員以外の地域の大人やとなり町からの参加もあり、顔見知りになり会話も生まれ、秋の地域防災事業につながるきっかけができました。

★**今後に向けては**、「地域のつながりが生活を豊かにする」の目標に向かってまちづくり計画書を策定していきます。地域の皆さまのご協力をよろしくお願いします。



休みたい日もあったけれど頑張ったよ!
(小学生)



親子とも生活リズムが崩れませんでした
(保護者)



子どもたちを大切に思ってくださる地域の方々に感謝しています
(保護者)



病後の回復期、お誘いの声かけが大変嬉しかった
(港町一般)

ありがとう美川小学校 学校開放 美川地区まちづくりネットワーク

8月14日(金)から3日間、浜田市立美川小学校を地域に開放する事業が行われ、約400名もの方が来校しました。これは、令和8年度で現在の校舎がなくなるため、歴史ある懐かしい校舎をお盆の帰省に併せて開放し、小学校への愛着と絆を思い起こしてもらおうと、学校運営協議会で話し合いの後、美川地区まちづくりネットワークや学校、地域が協働して開催しました。

とても大切な場所 「インスタで学校開放があると知って帰ろうと思った。」と話す仲良し4人組の卒業生が、校舎の隅々までを懐かしんでいる姿や、「人数は少ないけれどとても大切な場所。」と話してくれた言葉から、小学校が彼らの友情が育まれた場所であることが伺えます。また、違う年代の同窓生の、「今日はよかった！また会おうね。」と、校門のイチヨウの樹の下で手を振り合う光景から、美川小学校に所縁のある人々の喜びとなる企画になりました。

できることを続けていく 地域では、小学校と共に3日間を交替しながら来校者の対応を行いました。普段から登下校の見守りを行うなど、地域ぐるみで小学校を支える関係があり、その思いに応える小学校の協力がありました。

「今までどおり、これからもできることを続けていく」と、来校者に笑顔で対応する地域の姿に、地元の子どもたちを思う気持ちが伝わってきます。

ありがとう美川小学校校舎

小学校が準備された持ち帰り用パンフレットの中には「穏やかで人情味があり、学校教育に理解と協力を惜しまぬ町」と、校区の紹介があり、学校と地域との深い関わりを感じました。



地震体験&花火教室

8月22日(土)
黒川まちづくり委員会

設立から3年目となる黒川まちづくり委員会では、**事業を通して顔見知りになり、いざ！という時の防災防犯の助け合い関係づくり**に取り組んでいます。

会場となった石見まちづくりセンターでは、浜田市消防本部による「地震火災を防止する電気ブレーカー装置の説明」や「避難の仕方」、「安全に花火を楽しむための教室」などが行われました。学びのあとの花火では、子どもや保護者の笑顔をたくさん見ることができ、このような機会を積み重ねていくことが助け合いのまちづくりにつながります。



顔見知りになろう

防災防犯の助け合い関係づくり



親子ではちみつしぼり体験

7月18日(土)

後野町まちづくり推進委員会
石見まちづくりセンター

この夏、後野町まちづくり推進委員会の構成団体「植える花夢」(ウエルカム)と石見まちづくりセンターは、希少な「日本ミツバチ」を使った体験活動を行いました。後野地区の養蜂家の協力により初体験となった子どもと保護者からは、終始驚きと喜びの声が飛び交い一様に笑顔があふれていました。



7段にもなる巣蜜がぎっしり詰まっている巣箱から、巣蜜を切り出し両手で丁寧につぶします。出た蜜汁がはちみつの元です。更にこれを漉し布で漉してやっと作業開始から1時間あまり、ミツバチのはちみつができあがります。



整然と並んだ巣蜜には、小さなミツバチが約4キロメートル先の花を訪ね、何度も往復して蜜を運んで作るという説明や、ミツバチの天敵大スズメバチのお話、また見た目よりも固い感触の巣蜜をつぶす体験など この日、地元講師の話を聞き、見て、触れ、嗅いで味わう体験をした子どもと保護者は、「ふるさと浜田」の一面を充電でき、満ちた笑顔がいっぱいでした。

ミツバチの天敵
大スズメバチ

こうして、地域のヒトやモノ、そしてコトが、地区まちづくり推進委員会とまちづくりセンターによって次代へと紡がれる姿は、本当に誇らしいです。

第5回 この夏『君が』『地域が』…変わる この夏『君が』『地域が』…変わる 実行委員会



自分たちで考えてやる
やりたいことをやって楽しい思い出として残るものにする
自分たちの姿を子どもに見せる



8月31日(月)に行われた反省会では、電気設備・広報集客・当日運営など全ての人が安全に安心して楽しむことができたこと、次世代につなぐためのアクションが話し合われました。島根県立大学生・島根県立浜田商業高等学校学生の企画運営能力が素晴らしく、次も必ず参画をとという意見がありました。

地元小学4年生の感想

「大勢のお客さんが来てくれて嬉しかった。弥栄町の人たちと交流するきっかけになりました。たこ焼きは難しかったけれど、最後まであきらめずに出来たので良かったです。」

保護者の感想

「娘が出店したいと言った時から不安でいっぱいでしたが、みなさんの「美味しかったよ」という言葉が聞けて、出店して良かったなと思いました。親子共々良い経験になりました。」



特集 岡見花火

自分たちが楽しむ！ みんなに喜んでもらえることに！

[Instagram]

ハナロ
の
つばやき

主催：岡見花火実行委員会
共催：岡見地区まちづくり推進委員会



第3回 岡見花火が7月18日(土)、岡見須津漁港で開催されました。気の合う仲間が集まり、「まず自分たちが楽しみたい。それがみんなに喜んでもらえることにつながればもっと嬉しい。」という心意気から始まった岡見花火。10人だった実行委員が今回18人まで増え、岡見地区まちづくり推進委員会の応援も加わるなど、岡見地区内外からのバックアップにより、約2,000人の来場者が岡見花火を楽しみました。

4年に一度の開催としたのも第1回の反省会で資金調達と人脈を広げるには、4年という時間が適しているとの意見からです。「回を重ねるごとに実行委員会に気持ちの余裕が出てきて、『君たちがやるなら応援するよ！』の力が力になる。」と、齋藤裕二実行委員長。今後に向けては「4年先は長いので、2年のところで軽めに楽しいことをしてみたい。」と意欲的です。Instagramも楽しさUPに大きく貢献していました。

本番までのカウントダウン 10...9...8...7...6...5...4...3...2...1...

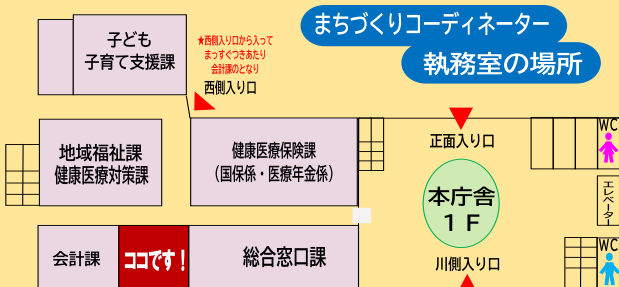


コーディネーターのつぶやき

吉本 美和子

この半年、私の居場所の一つに島根県西部人権啓発推進センターの図書コーナーがある。立ち寄った際に連載マンガを借りたのがきっかけだが、意外と面白くて通い続けている。マンガと言えども新たなことを知り、気づき、共感し、今までの自分をふり返ったり、と奥が深い。居場所でまた誰かとつながっていく...

本号では、まちづくり事業の先に子どもたちの姿があるものを追いかけてみた。様々な活動や事業の場にいる子どもたちにとってまちづくりが居場所の一つになるといいなと思う。「楽しい」居場所でつながるといい。



[Instagram]

フォローお願いします



浜田市地域政策部
まちづくり社会教育課

【電話】 0855-25-9201
0855-25-9007

(まちづくりコーディネーター執務室)

【FAX】 0855-23-1866

【メール】 machizukuri@city.hamada.lg.jp

[依頼申請コード]

